

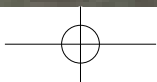
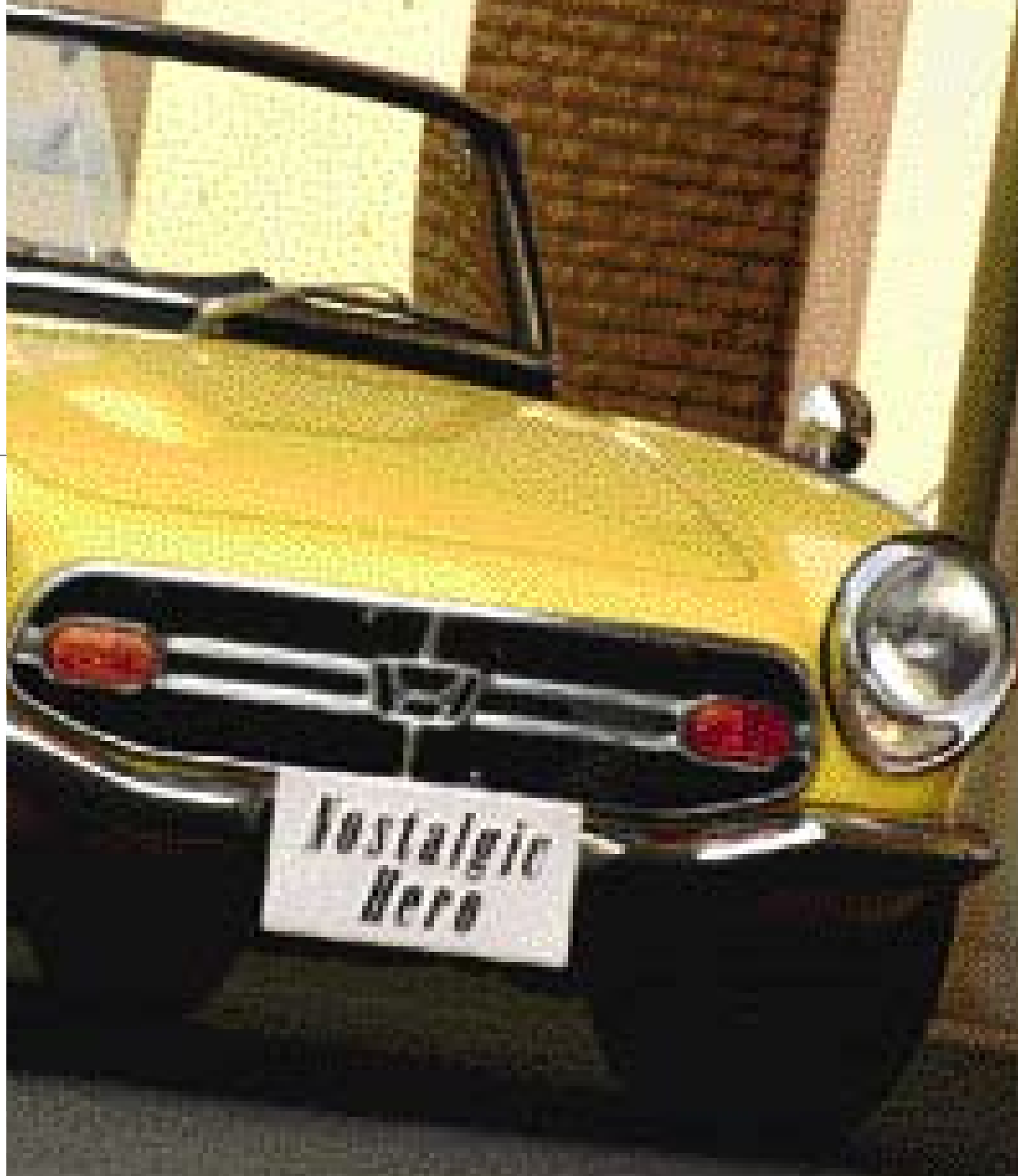
# 世界に誇る小型スポーツカーの真骨頂

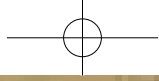
HONDA S800M

●68年式 ホンダS800M



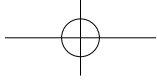
撮影=谷井 功  
photographer by YATSUI ISAO



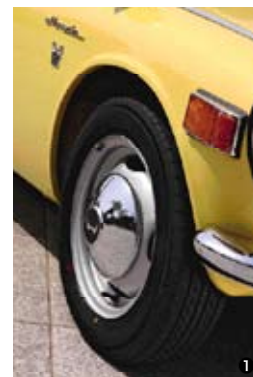


ガレージ イワサによる完璧なレストアにより、新車のような輝きを放つ S800M。Sシリーズの最終型で、オープンいみの設定。S800との違いは、輸出仕様に準じた安全基準を満たすため、ボディの前後左右に大型のリフレクター(ウインカー)が装着されているのが特徴。ボンネットの膨らみ(パワーバルジ)は、排気量がアップしたS800から採用された。





ソフトトップは、ガレージ イワサによって新品に交換されている。S800Mからは、従来型より幌骨から高くなっており、ヘッドクリアランスを稼いでいる。



①ホイールはS800Mでは13インチが標準となり、ラジアルタイヤを採用。また、フロントキヤリバーはガーリングのフローティングタイプに変更され、制動力をアップ。②フロントグリル内のウインカーは国内仕様で、輸出仕様はやや大きく、デザインも異なる。



③トランクの横に設けられた給油口には、クラシカルなデザインのフタが取り付けられる。トランクのヒンジやモール類なども、新品のように磨き上げられている。④テールランプは白、オレンジ、赤色の3分割。国内仕様とアメリカ仕様がこのデザインだ。リアの角に装着されているリフレクターがS800Mの特徴。⑤トランクルーム内はもちろん、燃料タンクやヒンジなどもキレイにレストア済み。⑥トランク内の後方パネルには、ホイールレンチ兼用のジャッキ用の棒がセットされている。



1966年5月のマイナーチェンジで、チェードライブから4リンク+派なールロードのリジッドアクスルに変更された。ドア後方からキックアップしたサイドビューが美しい。ラダーフレームとアウトースキンを組み合わせる構成となっている。

1948年に本田宗一郎によって創業されたホンダ。当時は小さなメーカーでしかなかったが、58年に発表したスーパーカブによって躍進を遂げ、2輪メーカーとしての地位を確立。59年には2輪の世界グランプリに挑戦し、その技術力の高さを知らしめた。ホンダが次に挑戦したのが、2輪メーカーから4輪メーカーへのステップアップだ。62年10月の第9回全日本自動車ショーにおいて、初の乗用車ホンダスポーツ360と500がセンセーショナルなデビューをとげた。排気量は小さいながらも、エンジンはグランプリマシンゆずりの精密な4気筒DOHCエンジンを搭載。翌63年末にホンダS500として発売され、高性能ながらバーゲンプライスのような低価格によって旋風を巻き起こした。その後、64年3月にはS600がデビュー。日本をはじめ海外のレースでもヨーロッパの競合を破って1000ccクラスで優勝。4輪メーカーとしてのホンダの名を世界に広めることになったのだ。

66年1月、さらに排気量をアップしたホンダS800がデビューし、エスハチの愛称で、若者をはじめ当時注目されたはじめたモータースポーツの入門車として圧倒的な支持を集めた。S800に搭載されるエンジンは、S500から受け継がれるアルミ製の水冷4気筒DOHCを791ccまで拡大。4連キャブレター、組み立て式クランクシャフトにニードルローラーベアリングを組み合わせ、ホンダが得意とする高回転・高出力を実現。アクセルワークに連動してシャープにどこまでも吹け上がるエンジンと、カチカチと決まるシフトフィーリング。そして軽量なオープンボディとの組み合わせ

は、それまでの日本車にはない卓越した操縦性を発揮。スポーツカーのお手本と呼ばれる高い完成度を誇った。68年5月のマイナーチェンジで登場したのが、エスハチの最終型となるS800Mだ。これは輸出用にボディの四隅にリフレクターが装着され、フロントにはディスクブレーキ、13インチタイヤが標準装備になるなど、エスハチの最終進化モデルとなる。今回紹介するS800Mは、長年Sシリーズを手がけてきた「ガレージイワサ」によって、ボディからエンジン、ミッション、足回り、内装まで、完全にレストア。まるで新車のような状態に仕上げられている。

例えば、Sシリーズは200万円前後のベース車を購入したとすると、フルレストアの部品代が250万円、ブレーキ、デフ、ミッション、足回りのOHに200万円、ボディをフレームオフしてレストアすると200万円。単純に足し算ではないにしろ、けっこうな金額がかかる。しかも、「ガレージイワサ」だからこそ、貴重な純正部品のストックであったり、正確な情報や豊富なノウハウがあるからこそ、ここまで完全なレストアができるのだ。「よその中古車屋さんで買ってきただけ、エスハチが整備で入ってきたりすると、完全な状態にするには、可哀相だけのお金がかかるんだよね。このS800Mはフルレストア済みで販売しているけど、売れたとしても商売にはならないかな。ストックの部品を使ったり、工賃だけでもそうとうかかるから、レストアは割に合わないよね。買ってくれたお客さんは満足してもらえないかな」と岩佐社長。気になるプライスのほうは、直接連絡して聞いてみよう。



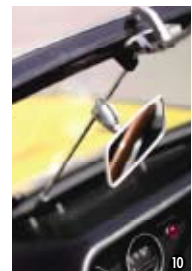
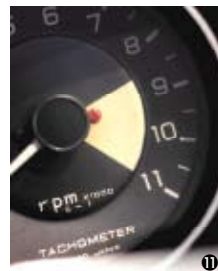
DOUBLE  
OVERHEAD  
CAMSHAFT  
ENGINE 神々しき  
DOHC



⑦車台プレートは、助手席側に装着。S800Mは末尾番号の下4桁が5で始まる。⑧Sシリーズには京浜製のCVキャブを採用。排気量や年式によって口径や形状が変更されている。S800Mには、30Hと30Jの2種類があり、このS800Mにはパイロットスクルーが垂直な30Jが装着されている。⑨点火系以外は、純正スペックでOHされたAS800E型エンジン。総アルミ製の2バルブDOHCエンジンは、まさに精密機械のようだ。



基本的なデザインはSシリーズと共通だが、S800Mではダッシュボードがパッド入りになるのが特徴。自動選曲ラジオ、大容量ヒーターが標準装備となった。純正ステアリングも美しい状態。



⑩オープンルームミラーはテンションロッドに装着されるタイプ。S800M用は、プラスチック製で衝撃脱落式となる。⑪タコメーターは、8500rpmからレッドゾーンが始まり、11000rpmまで刻まれている。当時は10000rpmまで使っていたとか。⑫純正シート、内張、カーペット、幌カバーなどもすべて貼り替えられ、まるで新車のような。シートのポジションが低いいため、スポーティーなドライビングポジションとなる。センターアームレストも装着予定。



## DETAIL

### 超精密なエンジンはレーシング技術の結晶

Sシリーズに搭載されたオールアルミニウムDOHCエンジンは、ホンダ独自の技術がふんだんに盛り込まれている。代表的なところでは、組み立て式クランクシャフト、そしてニードルローラーベアリングを採用している点だ。これは当時の2輪のグラブプリマシンの技術で、当時のプレーンベアリングの材質では、5000~6000rpmが限界だったが、Sシリーズは軽く8000~10000rpmまで回してパワーを出すことが可能だった。

また、ヘッド&ブロックとも軽量化のためアルミ製としている。しかも、ウェ

ットライナー方式を採用しているが、S600からS800にボアを広げるにあたっては、それまでの1気筒1スリーブではサイズの厳しいため、1-2気筒、3-4気筒が合体した特殊なスリーブ形状を採用。また吸気系の4連キャブレターに対し、排気系は美しい曲線を描くタコ足と特徴的な4-2-2式のマフラーを採用。「マフラーを変えているエスを見かけたりするけど、純正がベストだね」と岩佐社長がいうほど、純正マフラーが理想的な排気特性を発揮している。

S500からS800まで、進化のためにピストンやカム、キャブレターなどが見直されたAS型エンジン。その実力は、世界中が認めるほど高性能だった。

### ■68年式 ホンダS800M(AS800型)

●全長3335mm ●全幅1400mm ●全高1215mm ●ホイールベース2000mm ●トレッド前/後1162mm/1150mm ●最低地上高190mm ●室内長840mm ●室内幅1195mm ●室内高935mm ●車両重量755kg ●乗車定員2名 ●最高速度160km/h ●0→400m加速16.9秒 ●登坂能力sinθ0.361 ●最小回転半径4.4m ●エンジン型式AS800E型 ●エンジン種類水冷直列4気筒DOHC ●総排気量791cc ●ボア×ストローク60.0×70.0mm ●圧縮比9.2:1 ●最高出力70ps/8000rpm ●最大トルク6.7kg-m/6000rpm ●変速比1速4.001/2速2.480/3速1.613/4速1.143/後退4.572 ●最終減速比4.714 ●燃料タンク容量30L ●ステアリング形式ラック&ピニオン式 ●サスペンション前/後ダブルウィッシュボーン・コイル/5リンクリジッド・コイル ●ブレーキ前/後ディスク/ドラム ●タイヤ前後とも145SR13 ●発売当時価格75万円

## SHOP INFORMATION



ホンダSを中心とした旧車専門店「ガレージ イワサ」。ショールームの隣はファクトリーで、ボディのレストアからエンジンのOHまで、すべての自社で行う。当時の最高級の素材を使い、コストがかかっているクルマだからこそ、専門的な知識が必要なのだ。



### GARAGE IWASA

〒353-0002  
埼玉県志木市中宗岡3-8-7  
TEL048-472-0602  
<http://www.garage-iwasa.com/>